

子どもたちと井川の未来を語る

井川小中学校では、昨年まで小学校で「うすゆき」、中学校で「おにかじ」と呼んでいた総合的な学習の時間を9年間通して「ふるさと井川学習」と名付けました。そして、さらに地域に根ざした探究学習を進め、地域全体で子どもたちに社会で必要な力を育てています。

子どもたちは地域のみなさんに伝えたいことがあります。地域のみなさんと考えていきたいと考えています。どなたでも参加可能です。子どもたちに伝えたいことありませんか？一緒に井川の未来を語りましょう。

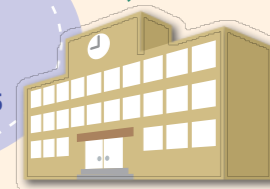
学校と地域をつなぐ交流の場づくり!

いかわねのみんな、いかわね以外からも、みんな来てくりよ〜!

学習発表会 〜ふるさと井川学習〜

日付 2017年12月16日(土)
場所 井川支所 時間 9:00~11:45

井川小中学校
全校生徒11人!



地域の魅力を学校の中で生かす

5年

在来作物を広め隊!!

私たちは今年、在来作物である雑穀と野菜を育てています。そもそも在来作物とは、種が昔からその土地に受け継がれてきている作物のことです。その在来作物は『井川の宝』とも呼ばれています。私たちは、この『井川の宝』である在来の野菜や雑穀に魅力を感じました。そして、地域の人から教わった雑穀の伝統的な食べ方であるコウボウキビの焼き餅を食べてみました。とてもおいしかったことを覚えています。その経験から“在来作物の魅力をたくさんの人に知ってもらいたい”“雑穀の新しい食べ方を考えたい”という思いをもちました。現在、井川の新しい特産品となるものを考えています。学習発表会では試作品を作る予定です。ぜひ試食を一起来てください!!



3年

朝日ヶ丘山荘でパーティーをしよう!

ぼくたちは、裏山にある朝日ヶ丘山荘を直し、パーティーをすることを目標にしています。自分たちで計画を立てて直したり、卒業生に話を聞いたりするのが楽しみです。



4年

井川の木を使って、作ったよ!

「井川の木は素晴らしい!」「井川のみんで遊べる物を作りたい!」という思いを実現しました。井川森林組合の方々とのコラボレーション!設計図から現場で木を切ったり、組み立てをしたりと、すべて自分たちで行い、ベンチを作成しました。ぜひ、学習発表会に来て、実際に見てください。



学校の外で地域に入って課題解決を検討

6年

井川の祭りを盛り上げざあ〜!!

ぼくは、井川の祭りのポスターを作りました。多くの方がぼくの作ったポスターを見てくれました。学習発表会では、そのポスターの効果と来年の祭りのポスターを発表します。ぜひ見に来てください!



7年

井川を残す

私は、井川が好きです。今の井川は20年後30年後違うものになっていると思います。だから井川の資料をみんなで創り未来に繋げて、井川を残したいです。



8年

井川と白川郷

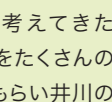
こんにちは。僕は最近東京から井川に転校して来たよ。ユネスコ認定された井川と白川郷の同異点を調べ、井川をPRしていきたいよ。東京から来た僕だからこその感じた事を伝えるよ。



9年

井川を拡散

私は7年間考えてきた井川の魅力をたくさんの人に知ってもらいたい井川の観光を盛り上げたいです。より多くの人に知ってもらえるように、SNSやPR動画の活用方法をみなさんと考えたいです。



焼畑イベントを終えて

今夏、焼畑の火入れ、及び体験型観光イベントを実施しました。107名(スタッフを除く)の方に参加いただきました。ご参加いただき、中野観音堂近くの耕作放棄地だった茶畑がソバ(在来種)畑に再生しました。こうした取り組みは、周囲の理解・支援なくして成立

しえません。ゆえに、4月に実行組織を設立し、協力を呼び掛けたところ、準備段階から産官学民の様々な方が参加してくださいました。農耕文化や生物多様性の保全と同時に、観光振興を図る焼畑プロジェクト。全国的にも珍しいこの取り組みに携わり、皆さんの井川への思いにふれ、やりがいを感じています。11月4日には、ソバの収穫等のミニイベントを開催予定です。参加者との交流を楽しみながら、大切にしながら、プロジェクトの持続可能な道筋を探っていきます。(文・杉本史生)



駆け抜けた夏井川地域おこし協力隊の奮闘記

昨年引き続き、今年も7月に第2回で「うすゆき」音楽祭を開催しました。今回はロック、ジャズ系バンドが東京から4バンド、静岡から3バンド(静岡市、島田市、川根本町)出演し、よりローカル色が強いイベントとなりました。また井川住民による

模擬店出店も増え賑やかな雰囲気のうち無事に終了することができました。アクセスの悪い井川まで足を運んでくださったお客様、忙しい中手伝って頂いた井川内外のスタッフには大変感謝しています。昨年の第1回目は勢いで乗り切りましたが、今回やってみて多くの課題が見えてきました。基本は楽しむこと、イベントに関わる全ての人笑顔の



あふれる空間を作りたいと思います。(写真「スタジオイン&アウト 松浦栄一撮影」)(文・柴田健一)



乗って好きな絵柄をゲットしてください。



いかわねの人々 Vol.8 長島 孝裕さん(井川)

ある時は、てしゃま(※)の運転手。またある時は、畑で精を出す百姓。そして、またある時は祭りを盛り上げるゲーム屋さんだったりと、たか兄と親しまれる彼は一体何ものなのか?!「おらの名前を検索して」とネット検索すると、ツイッター『森あげ隊っす井川』を発見。「これを読んでくれればおら

が誰だかわかる。ありのままの自分だから。」自分が面白いと感じたもの、これは伝えねば!と思ったことなど自由気ままに綴られた日記から、好奇心旺盛で包み隠さず自分を表す芯の強さを感じられます。井川を多くの人に知って欲しいという熱い気持ちも込められた日記は、多くのファンを集めています。

そして最近人生で一番面白いと力を注いでいるのは畑!世界一辛い唐辛子キャロライナリーパーやルバーブなどを、井川で栽培できるか実験中とのこと。畑に居ると今まで話をしなかつた年配の方と話したり、在来の種を引き継がせてもらったりと、畑を通して地元の人々との関係も面白くなってきたと語るたか兄。畑が好きだった親父さんが乗り移っているのだそうです。(文・写真 三木友美子)

※てしゃまくん:井川の自主運行のバス